

おしゃべり会に参加してみませんか

令和5年度 (福)千葉市手をつなぐ育成会の取り組み 親の会との連携のために

【令和4年度までの経緯】
千葉市手をつなぐ育成会の長い歴史のもとに現在の「社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会」が成り立ち、今日に至っておりますことは皆様方もご存じのとおりです。

令和4年度法人事業計画にも「千葉市手をつなぐ育成会との連携」が重点項目の1つに掲げられました。連携を形骸化させず、より活きた連携を図ることが目的です。令和4年度は、まずは「千葉市手をつなぐ育成会と顔見知りになる！」ことを目指し、育成会正副会長を中心に各事業所を見学いただきました。

けるよう年間計画を立案しています。
例えば、5月15日(月)
↓育成会の「あんしん委員会」に法人「安全管理委員会」(安全やリスクマネジメント)について考える委員会、職員が参加させていただきました。
6月15日(木)
↓育成会理事会終了後に法人の「よいしごと委員会」(対人援助職としての資質向上を目指す委員会)職員がよいしごと委員会の取り組みを発表します。
7月14日(金)
↓育成会理事会終了後に、稲毛障害者基幹相談支援センター職員が「基幹相談センターマル秘情報交換会」と称し、普段なかなか聞けない!?!裏話、最新の情報をお話しさせていただきます。
以降も理事会の後半の時間に、高齢期や学齢期の発表等を計画しています。また、おしゃべり会への参加も予定しています。育成会理事の皆様にとっても、少しでも意義ある時間になりますよう、職員も準備を進めております。

【令和5年度の取り組み】
見学後にいただいたアンケート等を基に、令和5年度の方角性を検討しました。「双方向の連携を図ること」「持続可能な取り組みであること」を軸に、令和5年度は「千葉市手をつなぐ育成会を私たちが知る!」。具体的には、千葉市手をつなぐ育成会の理事会への定期的な参加や、現場職員と育成会役員の皆様との直接的な交流の機会を作っています。

【令和5年度の取り組み】
見学後にいただいたアンケート等を基に、令和5年度の方角性を検討しました。「双方向の連携を図ること」「持続可能な取り組みであること」を軸に、令和5年度は「千葉市手をつなぐ育成会を私たちが知る!」。具体的には、千葉市手をつなぐ育成会の理事会への定期的な参加や、現場職員と育成会役員の皆様との直接的な交流の機会を作っています。

緑区
都賀地区部会の民生委員(都賀地区部会の障害者福祉委員会委員長他)や、会員外の方も参加して、様々な悩みや心配事を気兼ねなく話し合います。学び合う場となっており、地域の方々と一緒に、楽しくおしゃべりをしてみませんか。
(会員 大川)

若葉区
テーマは特に決めずに、日々の悩みや喜びなどの体験や、地域の病院や、施設などの情報を、気軽に話しています。心が疲れがちな親たちの、気分転換の場となつていようように思います。是非ご参加ください。
(理事 村井)

中央区
ただいま、お休み中です。花見川区で開催ご希望の方、事務所までご連絡ください。

美浜区
日頃の楽しいおしゃべりから将来に向けてのサービス利用の情報交換、災害時の避難行動、こどもが外出先で被災した時の行動についての話など、皆の心配事も様々。いつもしゃべり疲れて、時間いっぱい締められることもしばしばです。
(副会長 藤若)

稲毛区
様々な年齢の方が集い、和やかな雰囲気の中、学齢期の悩みに共感したり、大きくなった我が子を振り返ってみたり。顔を合わせるから生まれる「ちよつとした話」の中から、情報交換したり困り事を相談したりしています。
(広報部 御代)

花見川区
ただいま、お休み中です。花見川区で開催ご希望の方、事務所までご連絡ください。

ワイシャツにネクタイをした姿が新鮮で、高等部の制服姿に、我が息子ながらほれほれとしています。後ろはゴムでとめているネクタイが、無理やり引つ張られて伸びてしまうのも時間の問題ですが、しばし母のわがままにつきあってみようことにしました。この春、息子は高等部へ入学。はじめは緊張している様子もありましたが、すぐにいつもの明るい調子を取り戻しているようです。
新しい場所が好きな息子は、作業班では陶芸班になり、初めての「陶芸」に挑戦します。小さい頃は手が汚れることを嫌がっていたのに、いつの間にか粘土も扱えるようになりました。じつと座っていられるのか、外の作業場への移動時に脱走しないのだろうか、内心は陶芸とは程遠いところでは不安を感じていますが、担任の先生には「陶芸班、大丈夫です。」と言ってしまいましたが、どんな作品ができるのかも楽しみです。
これからの高校生活、持ち前の明るさを息子が発揮できるように、家族で応援していきます。(副会長 藤若)

慌ただしかった受験シーズンを経て、この春、我が家の息子は、市立養護学校高等部に入學しました。環境の変化に戸惑わないか、情緒不安定にならないか不安でしたが、親の心配をよそに、いざ、学校生活が始まると、毎日いきいきとして、とても楽しそうな姿を見ることができ、ほっとしています。
新しい環境や状況に対して、息子が失敗や苦難を経験することもあるでしょう。しかし、それは成長の過程であり、家族や周囲の人々がいつでも支えていることを忘れずに前に進んで行ってほしいです。
まだコロナ禍ではありますが、今年度からは以前のような日常に戻つつあるのを、肌で感じています。学校行事のカットも少なくなるので、中学よりも楽しみが増えそうです。学校生活もあと三年弱ほど。卒業後の進路も真剣に考えなければならず、少し焦つたりもしますが、学校と相談したり、育成会の研修会を受けたりしながら、無理のないよう、卒業後の進路を探せればと思います。
(広報部 野口)

県立千葉特別支援学校の中学部から高等部になりました。楽しみにしていたことの一つでもある作業学習では、声出しOK(掛け声あり)で、大好きなスコップを使うコンクリート班を自分で選んできました。五月下旬からの暑さで既に毎日半泣き状態で帰ってきますが、作業自体は楽しいようで家でもコンクリートの手練りの真似をしています。
もう一つ楽しみにしていたことは部活で、陸上部に入学しました。先日のゆうあいピックに初めて参加し、銅メダルを貰うことができました。広い競技場で走ることができたことも嬉しかったようで、「楽し

新生活スタート
娘は24歳。楽しいことを考えている時が絶好調。テレビでファーストフード店の新メニューが紹介されると、すぐにネット検索、プリントアウトして「行きたーい」。映画、遊園地、イベントなどの新情報も然りゆっくり過ごすことが何より苦手なため、土、日も予定を入れない。とにかく、行動的。そんな娘が昨年暮れ、何を思ったのか突然「フライングディスクしたい」と言い始めた。YouTubeで大会の様子を見始め、新聞紙で娘なりのディ